

平成22年3月期 第1四半期決算短信(非連結)

平成21年8月11日

上場会社名 株式会社 スーパー大栄
 コード番号 9819 URL <http://www.superdaiei.com/index.html>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中山 勝彦
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部経理部長 (氏名) 阪本 博美
 四半期報告書提出予定日 平成21年8月13日
 配当支払開始予定日 —

上場取引所 福

TEL 093-602-2770

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年3月期第1四半期の業績(平成21年4月1日～平成21年6月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第1四半期	7,185	△0.4	46	△28.3	39	△27.1	62	15.9
21年3月期第1四半期	7,210	—	64	—	54	—	53	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第1四半期	8.90	—
21年3月期第1四半期	7.67	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第1四半期	11,093	3,819	34.4	547.90
21年3月期	11,086	3,769	34.0	540.68

(参考) 自己資本 22年3月期第1四半期 3,819百万円 21年3月期 3,769百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	0.00	—	5.00	5.00
22年3月期	—	—	—	—	—
22年3月期(予想)	—	0.00	—	6.00	6.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年3月期の業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は通期は対前期、第2四半期累計期間は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期累計期間	14,800	0.9	130	29.7	110	43.9	100	109.1	14.34
通期	30,300	1.5	300	△6.1	250	△9.0	200	43.4	28.68

(注) 業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

[(注)詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。]

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 無
- ② ①以外の変更 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年3月期第1四半期	7,200,000株	21年3月期	7,200,000株
② 期末自己株式数	22年3月期第1四半期	228,877株	21年3月期	227,877株
③ 期中平均株式数(四半期累計期間)	22年3月期第1四半期	6,971,488株	21年3月期第1四半期	6,981,458株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と異なる場合があります。業績予想の前提となる条件等については、4ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 経営成績に関する定性的情報

当第1四半期累計期間のわが国経済は、リーマンショック以来、世界的な金融不安は続いておりますが、中国を中心とした新興国の景気回復の影響で、一部企業で在庫調整や生産が拡大するなど、景気の下げ止まり傾向が見られ、また、株式市場や為替市場においても、株価の持ち直しや、円高傾向に歯止めがかかるなど、景気安定化への兆しが見え始めてまいりました。

しかしながら、企業収益の悪化や厳しい雇用情勢、個人消費の低迷は依然として続いており、全般的な景気回復には未だ厳しい状況と思われまます。

このような状況の中、当社は、競合激化店の競合店対策を進めるとともに、不採算店の整理や全般的な経費削減を図るなど、効率的な経営を目指してまいりました。

D&D事業部におきましては、一部の店舗で、仕入れ形態を抜本的に見直し、消費者の低価格志向にマッチングしたディスカウント店に業態転換中であり、SM事業部においては、中長期計画を見据えた店舗の効率化を検討し、支払賃料の引き下げや、不採算店舗の閉鎖を進めてまいりました。

これらの結果、当第1四半期累計期間の売上高は、当累計期間に当社の鮮ど市場店舗商圏内に大型のディスカウントストアが新規出店、その影響度合いが予想以上大きかったことと、D&D店舗の改装休業や、SM店舗の閉鎖による売上の減少が響き、7,185百万円(前年同四半期比0.4%減)となりました。

また、損益の状況につきましては、競合店の出店による売上減やD&D店舗の改装費用及び下期新規出店予定の人件費が先行投資となり、営業利益は46百万円(前年同四半期比28.3%減)、経常利益は39百万円(前年同四半期比27.1%減)となりました。

四半期純利益については、前第1四半期累計期間で計上した投資有価証券評価損や減損損失が発生しなかったため、当第1四半期累計期間は62百万円(前年同四半期比15.9%増)となりました。

なお、前第1四半期累計期間及び当第1四半期累計期間の事業部門別売上高は次のとおりであります。

事業部門	前第1四半期累計期間		当第1四半期累計期間		前年同四半期増減率(%)
	(自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)		(自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)		
	売上高(百万円)	構成比(%)	売上高(百万円)	構成比(%)	
小売業					
生鮮食品 ※1	3,858	53.5	3,977	55.4	3.1
一般食品 ※2	2,670	37.0	2,577	35.9	△3.5
日用雑貨 ※2	228	3.2	197	2.7	△13.6
その他 ※2	365	5.1	338	4.7	△7.4
計	7,122	98.8	7,091	98.7	△0.4
その他の事業	88	1.2	93	1.3	6.3
合計	7,210	100.0	7,185	100.0	△0.4

(注)※1 小売業の生鮮食品部門は、前期8月にSM既存店舗を生鮮ディスカウントの鮮ど市場に業態変更したことなどにより増収となりました。

※2 小売業の一般食品部門や日用雑貨部門、その他の部門は、不採算店舗を閉鎖(SM…前期2店舗、当期1店舗、D&D…前期1店舗)したことや、D&D店舗を6月に1店舗改装休業したことなどにより減収となりました。

2. 財政状態に関する定性的情報

(資産、負債、純資産の状況に関する分析)

当第1四半期末の総資産は、前期末比7百万円増加し、11,093百万円となりました。

流動資産は、D&D大刀洗店の改装休業等により商品が減少しましたが、繰延税金資産が増加したことなどにより、前期末比33百万円増加し、1,728百万円となりました。

固定資産は、D&D大刀洗店の改装や本社の会計・人事・給与システムの入替など総額62百万円の設備投資を行いました。84百万円の減価償却などにより、前期末比26百万円減少し、9,364百万円となりました。

流動負債は、買掛金や1年内返済予定の長期借入金は減少しましたが、短期借入金や賞与引当金が増加したことなどにより、前期末比133百万円増加し、4,894百万円となりました。

固定負債は、リース債務は増加しましたが、長期借入金が増加したことなどにより、前期末比176百万円減少し、2,379百万円となりました。

純資産は、四半期純利益を計上したことや、株式相場の回復によりその他有価証券評価差額金が増加したことなどにより、前期末比49百万円増加し、3,819百万円となりました。

(キャッシュ・フローの状況に関する分析)

当第1四半期の営業活動によるキャッシュ・フローは、税引前四半期純利益34百万円や減価償却費84百万円の計上、賞与引当金の増加58百万円に対し、仕入債務の減少△78百万円などで116百万円となり、前年同四半期比111百万円減少いたしました。これは、仕入債務の増減額が、前第1四半期10百万円に対し、当第1四半期△78百万円となったことなどによります。

また、投資活動によるキャッシュ・フローは、有形及び無形固定資産の取得による支出△14百万円や投資有価証券の取得による支出△21百万円などで△31百万円となり、前年同四半期並みとなりました。これは、有形及び無形固定資産、投資有価証券、建設協力金関連の入出金の総額がほぼ同額となったことによります。

さらに、財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の純増額250百万円に対し、長期借入金の返済による支出△292百万円や配当金の支払額△34百万円などで△79百万円となり、前年同四半期比65百万円減少いたしました。これは、短期及び長期借入金の純増減額が、前第1四半期21百万円に対し、当第1四半期△42百万円となったことなどによります。

これらの結果、当第1四半期末の現金及び現金同等物の残高は、前期末比5百万円増加し、877百万円となりました。

3. 業績予想に関する定性的情報

当第1四半期の業績は概ね計画どおり推移しているため、平成21年5月18日に公表いたしました第2四半期累計期間及び通期の業績予想に変更はありません。

4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

① 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、事業年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

② 経過勘定項目の算定方法

合理的な算定方法による概算額で計上する方法によっております。

③ 繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前事業年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前事業年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 【四半期財務諸表】
 (1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	当第1四半期会計期間末 (平成21年6月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	877,807	872,397
売掛金	9,748	7,156
商品	645,088	668,920
その他	195,871	146,789
貸倒引当金	△103	△103
流動資産合計	1,728,413	1,695,160
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	3,557,991	3,602,082
土地	3,570,691	3,570,691
その他(純額)	712,123	691,666
有形固定資産合計	7,840,806	7,864,440
無形固定資産	102,928	104,301
投資その他の資産	1,421,093	1,422,264
固定資産合計	9,364,828	9,391,007
資産合計	11,093,241	11,086,168
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,539,082	1,617,972
短期借入金	1,640,000	1,390,000
1年内返済予定の長期借入金	844,000	927,000
未払法人税等	10,372	30,713
賞与引当金	132,000	74,000
役員賞与引当金	—	25,000
ポイント引当金	16,008	16,508
その他	713,101	679,840
流動負債合計	4,894,564	4,761,034
固定負債		
長期借入金	1,164,000	1,373,000
退職給付引当金	725,707	720,623
役員退職慰労引当金	137,689	136,309
その他	351,745	325,447
固定負債合計	2,379,141	2,555,380
負債合計	7,273,706	7,316,414

(単位:千円)

	当第1四半期会計期間末 (平成21年6月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,667,108	1,667,108
資本剰余金	1,714,551	1,714,551
利益剰余金	513,203	485,956
自己株式	△72,153	△71,910
株主資本合計	3,822,709	3,795,705
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△3,174	△25,951
評価・換算差額等合計	△3,174	△25,951
純資産合計	3,819,535	3,769,753
負債純資産合計	11,093,241	11,086,168

(2)【四半期損益計算書】
【第1四半期累計期間】

(単位:千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
売上高	7,210,821	7,185,036
売上原価	5,666,014	5,644,026
売上総利益	1,544,807	1,541,010
営業収入	101,161	91,839
営業総利益	1,645,968	1,632,850
販売費及び一般管理費	1,581,282	1,586,496
営業利益	64,686	46,354
営業外収益		
受取利息	2,110	1,535
受取配当金	2,084	2,547
受取手数料	3,135	3,135
その他	3,683	3,000
営業外収益合計	11,013	10,219
営業外費用		
支払利息	20,567	16,339
その他	1,126	839
営業外費用合計	21,694	17,178
経常利益	54,005	39,395
特別利益		
受取保険金	806	969
ポイント引当金戻入額	—	500
特別利益合計	806	1,469
特別損失		
固定資産除却損	528	6,761
減損損失	3,501	—
投資有価証券評価損	14,900	—
その他	4,409	72
特別損失合計	23,340	6,833
税引前四半期純利益	31,471	34,031
法人税、住民税及び事業税	5,279	4,972
法人税等調整額	△27,387	△33,049
法人税等合計	△22,108	△28,076
四半期純利益	53,579	62,108

(3)【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位:千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	31,471	34,031
減価償却費	96,449	84,454
減損損失	3,501	—
投資有価証券評価損益(△は益)	14,900	—
退職給付引当金の増減額(△は減少)	11,193	5,083
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	2,203	1,380
賞与引当金の増減額(△は減少)	53,000	58,000
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	—	△25,000
ポイント引当金の増減額(△は減少)	△616	△500
受取利息及び受取配当金	△4,195	△4,083
支払利息	20,567	16,339
固定資産除却損	323	1,003
売上債権の増減額(△は増加)	612	△2,591
たな卸資産の増減額(△は増加)	2,810	23,225
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△743	△500
仕入債務の増減額(△は減少)	10,618	△78,890
その他の流動負債の増減額(△は減少)	27,300	39,367
その他の固定負債の増減額(△は減少)	△4,637	△3,241
その他	992	788
小計	265,752	148,865
利息及び配当金の受取額	2,133	2,583
利息の支払額	△19,016	△14,492
法人税等の支払額	△21,090	△20,575
営業活動によるキャッシュ・フロー	227,780	116,381
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形及び無形固定資産の取得による支出	△77,631	△14,745
投資有価証券の取得による支出	—	△21,433
貸付金の回収による収入	1,023	828
建設協力金の支払による支出	△1,383	△1,443
建設協力金の回収による収入	42,042	10,644
敷金及び保証金の差入による支出	△2,090	△5,756
敷金及び保証金の回収による収入	4,906	273
その他	1,878	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△31,254	△31,633

(単位:千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	70,000	250,000
長期借入れによる収入	300,000	—
長期借入金の返済による支出	△349,000	△292,000
リース債務の返済による支出	—	△2,233
自己株式の取得による支出	△101	△243
配当金の支払額	△34,907	△34,860
財務活動によるキャッシュ・フロー	△14,009	△79,337
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	182,516	5,410
現金及び現金同等物の期首残高	1,214,524	872,397
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,397,041	877,807

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項なし

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項なし